



平成 18 年 4 月 21 日

各 位

会 社 名 エステー化学株式会社
代表者名 代表執行役社長 鈴木 喬
(コード番号 4951 東証第一部)
問合せ先 常務執行役 土橋光男
(TEL. 03 - 5906 - 0733)

平成 18 年 3 月期通期業績予想の修正に関するお知らせ

平成 17 年 10 月 27 日の中間決算発表時に公表した平成 18 年 3 月期(平成 17 年 4 月 1 日～平成 18 年 3 月 31 日)の業績予想を下記のとおり修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

1. 平成 18 年 3 月期通期連結業績予想数値の修正(平成 17 年 4 月 1 日～平成 18 年 3 月 31 日)
(単位:百万円、%)

	売上高	経常利益	当期純利益
前回発表予想(A) (平成 17 年 10 月 27 日 発表)	45,000	2,850	1,200
今回修正予想(B)	46,130	2,640	980
増減額(B - A)	1,130	210	220
増減率(%)	2.5	7.4	18.3
前期(平成 17 年 3 月期)実績	44,109	3,260	1,823

2. 平成 18 年 3 月期通期個別業績予想数値の修正(平成 17 年 4 月 1 日～平成 18 年 3 月 31 日)
(単位:百万円、%)

	売上高	経常利益	当期純利益
前回発表予想(A) (平成 17 年 10 月 27 日 発表)	43,300	2,150	900
今回修正予想(B)	44,330	1,820	680
増減額(B - A)	1,030	330	220
増減率(%)	2.4	15.3	24.4
前期(平成 17 年 3 月期)実績	42,396	2,586	1,520

3. 修正の理由

売上が予想を上回ったことにつきましては、厳冬の影響でカイロが大きく伸びたこと、および主力のエアケア(消臭芳香剤)部門が新製品「エアウォッシュ」ブランドのヒットなどにより引き続き好調に推移したことに加え、衣類ケア(防虫剤)部門では、半年用から1年用へのシフトに伴う市場規模の縮小が一段落し、この中で着実にシェア及び売上を伸ばしたことによるものであります。

利益見込みが中間決算発表時の業績予想を下回った要因については、次のとおりであります。

粗利率の低下

相対的に粗利率の低い『消臭芳香剤』の新製品および『カイロ』の大幅伸長の一方、相対的に粗利率の高い消臭芳香剤の既存ブランドの縮小など、売上に占める製商品構

成比率の変化が主要因であります。

販売費及び一般管理費の増嵩

期中にエアケア市場への外資系企業参入があり、エアケア市場の競争が一段と激化しましたが、この環境に対応すべく広告宣伝費を中心にプロモーション費用を追加投入したことなどが影響しました。

なお、通期の連結業績予想につきましては、個別業績の見直しに伴い修正しております。

(注) 上記の業績予想につきましては、本資料発表時現在において入手可能な情報に基づき作成したものです。実際の業績は今後の様々な要因により予想値と異なる場合があります。

以 上